

令和2年12月14日

東松島市議会議長 大橋 博之 様

(会派名) 松桜会

代表者氏名 代表 小野 幸男



会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 松桜会 視察研修

3 実施期日: 令和2年11月30日(月)から
令和2年12月1日(火)まで

4 活動成果: 官民一体の支援として実施している地域人材育成事業の「タキザワイノベーション2020」について、調査視察することにより、本市の新規創業支援施策に対する提言等への参考とすることができた。

5 添付書類: 別紙報告書のとおり



報告書

- 1.活動名称 松桜会 視察研修
- 2.実施期日 令和2年11月30日(月)から
令和2年12月1日(火)まで
- 3.内 容

滝沢市は岩手県の中部に位置し、盛岡に隣接したベッドタウンである。
平均年齢が若く市内には岩手県立大学と盛岡大学の2大学があり、教育環境に
は恵まれている。

さて、滝沢市はこの度、コロナ禍での「新しい生活様式」に対応した新ビジ
ネスの創出に向けて地域人材育成事業「Takizawa Innovation
Challenge 2020」を実施した。大学生などの若い人から
プロジェクトアイデアを募り、新商品や新サービスの開発につなげようとの狙
いである。コロナ禍の経済対策として、テレワーク、リモートワークなどの流
れが生じ、地方移住の関心が高まる中、本市においてもビジネスチャンスの創
出を後押しすることで、移住・定住の増加にもつながると思われる。

Takizawa Innovation Challenge 2020
のもう一つの狙いは、滝沢市IPUイノベーションセンター(24社)に隣接す
る岩手県立大学ソフトウェア情報学部とセンター内に集積するIT関連企業と
のコンタクトを図り、産業連携の実を結ぶことでもある。本市も5大学と連携し、
本市が抱える課題について解決方策を検討・提案しているが、石巻広域圏には、
石巻専修大学を始め、10の公立高校と一つの私立高校がある。

これだけの学校がある訳だから、学校との連携を持つことにより、地域活性化
の提案がもたらされると考えられる。本市の産学連携の加速化をさらに推し進
め、新商品開発の具現化を図ってもらいたいと思料する。

今回のコンテストで滝沢市は若者の視点をビジネスに生かすとともに、コンテ
ストを通じて起業精神の育成も図りたいとの事由である。本市の「東松島市第二
次総合後期計画」の重点プロジェクトに「創業支援による雇用の確保」が記載し
てあるが、滝沢市の試みは本市にとっても参考になるのではないかと考える。

滝沢市の若者が行政や地域課題にあまり、興味を示さないことに行政当局は悩

んでいた。若者とコンタクトを取りたいとの願いでコンテストを開催したとその目的を所管の企業振興課の担当が語っている。また、オンラインゲーム・動画や電子書籍で著名で若者に人気のある会社であるDMM.make AKIBAとの共同開催により、若者の関心を高めようと努力し、腐心したと明かした。若い力を活用し、さらに人材の確保や定着にも繋がる取り組みで、本市にとっても大変、参考になる手法と思える。

滝沢市の冬は寒いですが、進出企業は多い。市内に人材を確保できる大学を有しているという利点もあるが、企業が集積しているIPUイノベーションセンターの立地の良さも影響していると考えられる。というのもセンターの目の前は広い放牧地で草の緑が美しい上に、目の前に秀麗な岩手山が眺望できるロケーションである。企業誘致の際、眺望の良いところにサテライトオフィスやコワーキングスペースを作っておくのも移住促進と企業進出のためにも大事なポイントであると感じた。

先述したようにコロナ禍で働き方が変わり、また、デジタル化の加速により、テレワークやリモートワーク、オンライン会議等の推進により、首都圏在住の若者層を中心に地方移住への関心が高まっている。この動きは地方創生の追い風になる可能性があると考えられるが、本市もこの流れに遅れることなく、地元人材を首都圏に流出させず、一方、優秀な人材を首都圏から呼び込むことに注力すべきと考えられる。魅力的な街づくりや若者が集い、自由にアイデアを活かせる環境作りがいま求められていることであろう。

滝沢市ではこのコンテストの開催が市のPRになったと評価していた。

「若者の発想を大事にし、支援するまち」のイメージ向上により、学生が集い、企業誘致のファクターになり、また、人材の定着に貢献するとの主旨で市長は次年度以降もコンテストを継続すると表明したとの事である。

コロナ禍は首都圏にいなくても仕事ができる状況を作った。

土地にしばられず仕事ができ、今までとは社会の流れ、価値観が変わってきている。コロナ後も見据えて、若者の人材確保や自治体としての魅力発信の在り方について等、今回の滝沢市の取り組みから学ぶところは大きく、収穫のある研修であった。